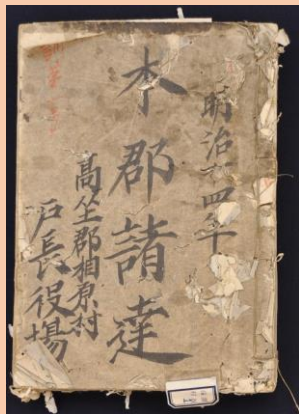


郡役所令達書類の世界

・相原村文書を中心に・

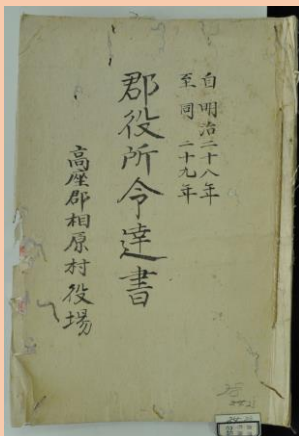
明治から大正期にかけて存在した県の出先機関「郡役所」、町村役場に
に残された郡役所の令達書類を通じて、明治から大正の時代を読み
解きます



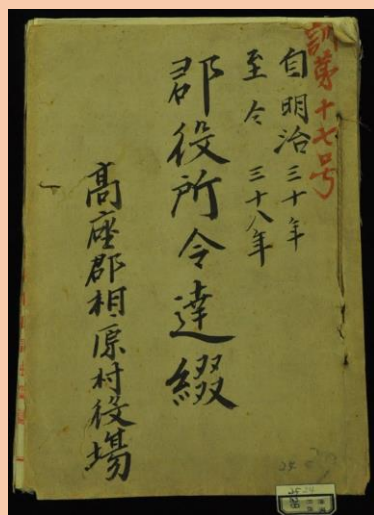
①



②



③



④

- ① 明治14年『本郡諸達』(相原村)
- ② 明治22年『官報号外大日本帝国憲法』(上溝町)
- ③ 明治28・29年『郡役所令達書』(相原村)
- ④ 明治30～38年『郡役所令達綴』(相原村)

開催期間・時間

令和7年 2月3日(月)～3月28日(金)

午前8時45分～午後5時

◇休館日／土・日曜日、祝日

なお、公文書館トーク・トーク(展示解説)の開催日は開館します。

◇公文書館トーク・トーク(展示解説)開催日／

令和7年2月15日(土)、3月15日(土) いずれも午後2時～3時

相模原市立公文書館

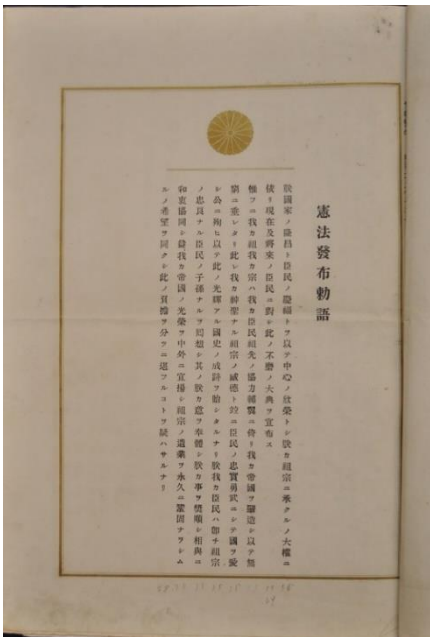
所在地 相模原市緑区久保沢1-3-1 / 電話042(783)8053

展示概要

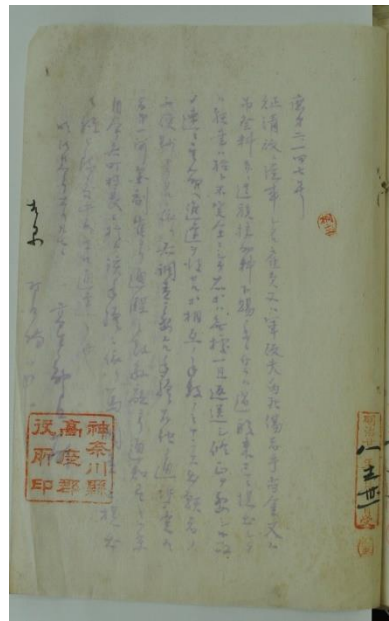
○ 県の出先機関として存在した「郡役所」、神奈川県内には当初1区（横浜区）と14の郡が置かれました（明治26年に多摩3郡が東京府に移管されたため、実質11郡）。

その郡役所から出された令達書が郡役所令達書類です。令達とは訓令と通達を合わせた呼び方で、郡役所から町村役場（町村成立以前は戸長役場）に出された様々な種類の文書をまとめた言い方です。政府の公報である「官報」も令達書類の一種として扱われている場合があり、上溝町文書の中に、明治22年の大日本帝国憲法の発布の際の官報（号外）が残されており、大判で菊の紋章入りの官報が配られていたことがわかります。

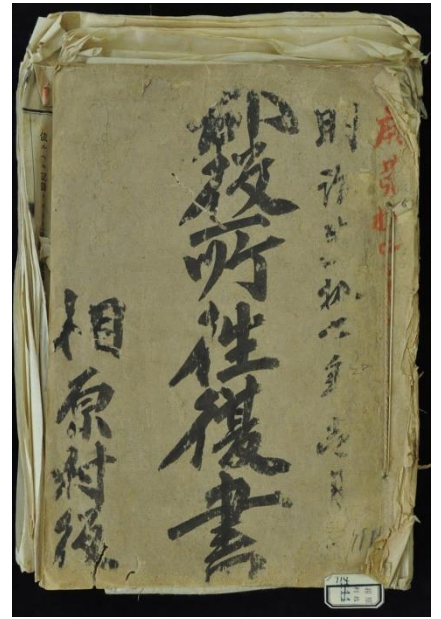
特に、相原村文書の中には、明治14年から大正9年までの令達文書が30冊以上残されています。今回は、郡役所令達書類を中心として、時代の流れを確認していきます。



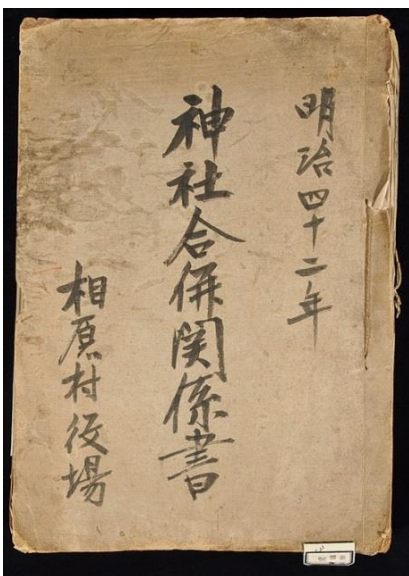
⑤



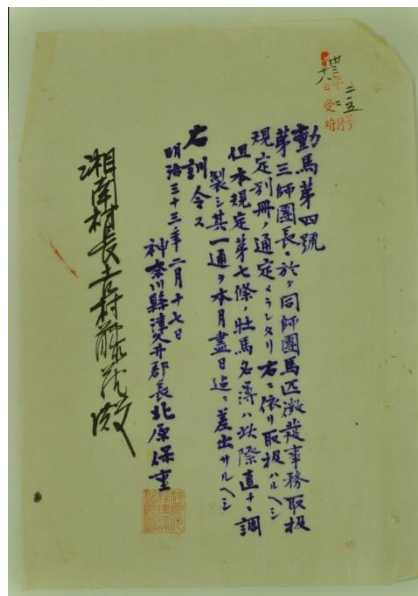
⑥



⑦



⑧



⑨

- ⑤ 憲法發布勅語（明治22年） 上溝町文書
- ⑥ 日清戦争従軍雇員・軍役夫に関する通達（明治28年12月）『郡役所往復書』所収
- ⑦ 郡役所往復書（明治27年）
- ⑧ 神社合併関係書（明治42年）：郡役所からの通達類が主な内容
- ⑨ 動馬第4号訓令（明治33年2月）湘南村文書「馬匹書類」の中に綴られていた郡長からの訓令